



# 避難行動に関する情報



警戒レベル3や警戒レベル4が出たら、危険な場所から避難しましょう。



「避難」とは「難」を「避」けることです。  
安全な場所にいる人は、避難場所に行く必要はありません。



避難先は指定緊急避難場所だけではありません。  
安全な親戚・知人宅やホテル・旅館に避難することも考えてみましょう。

※緊急時に身を寄せる避難先は、市町村が指定する「指定緊急避難場所」や、安全な親戚・知人宅など様々です。

普段からどこに避難するかを決めておきましょう。

※「指定緊急避難場所」は、災害の種類ごとに安全な場所が指定されています。(小中学校など)

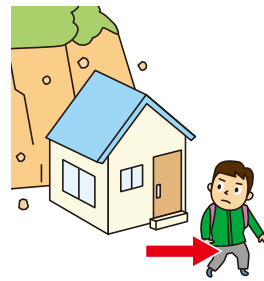
※災害が落ち着いた後に、自宅が被災し、帰宅できない場合には、しばらく避難生活を送るため、「指定避難所」に行きましょう。

## 水平避難と垂直避難

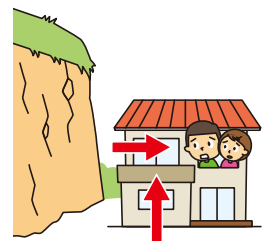
風水害では早めの避難が重要です。ただし、すでに避難経路が浸水しているなど、危険が間近に迫っている状況での無理な避難行動はできるだけ避けなければいけません。

そのような場合は、避難所への移動(水平避難)だけでなく、近隣の高い建物や自宅の2階といった高い場所への移動(垂直避難)を行う判断も必要です。

また、土砂災害の危険性があり、水平避難が難しいときは、屋内でも山と反対側に避難を行きましょう。



避難所への避難  
(水平避難)



高所への避難  
(垂直避難)

## 屋内安全確保

ハザードマップで以下の「3つの条件」を確認し  
自宅にいても大丈夫かを確認する必要があります。

※土砂災害の危険がある区域では立退き避難が原則です。

----- 想定最大浸水深



「3つの条件」が確認できれば浸水の危険があっても自宅に留まり安全を確保することも可能です

①家屋倒壊等氾濫想定区域に入っていない  
(入っていると…)



流速が速いため  
木造家屋は倒壊する  
おそれがあります



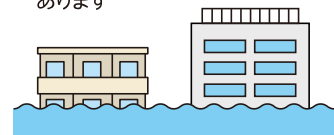
地面が削られ家屋は  
建物ごと崩落する  
おそれがあります

②浸水深より居室は高い

3,4階	5m~10m未満 (3階床上浸水~4階軒下浸水)
2階	3m~5m未満 (2階床上~軒下浸水)
1階	0.5m~3m未満 (1階床上~軒下浸水)
1階床下	0.5m未満(1階床下浸水)

③水がひくまで我慢でき、  
水・食料などの備えが十分  
(十分じゃないと…)

水、食料、薬等の確保が困難になるほか、電気、ガス、水道、トイレ等の使用ができなくなるおそれがあります



垂直避難での安全確保が困難な浸水深の深い地域や河岸侵食の可能性のある地域は早期の立退き避難が必要です。

豪雨時の屋外の移動は車も含め危険です。やむをえず車中泊する場合は、浸水しないよう周囲の状況等を十分に確認して下さい。